

（潮寿荘だより・第318号）

11月23日。勤労感謝の日。

潮寿荘では、潮寿荘メニューの中から職員の食べたい物のリストを聞いてメニューを決めるという『勤労感謝バイキング』が恒例となっています。職員は自分の食べたいものを好き放題書きました。キムチ鍋や唐揚げなど、いろいろありました。その中で『雷門寿司』（ガイドブックでもおなじみグルメに評判のお寿司屋さん）と書いた斎藤介護士。もちろんその願いは叶うことなく散りました。

バイキングは、エビ炒飯、カレーチャーハン、ズンドウブ、唐揚げ、すり身揚げ、ミモザサラダ、カスター

## 勤労感謝の日 バイキング



念でした。後日どうだったか職員に聞いてみると「カレー炒飯と



ドプリン、プチケーキ、と豪華なご馳走がたくさんで雷門寿司を食べる事ができなかつた斎藤介護士も「うまがつた。満足」と言つっていました。

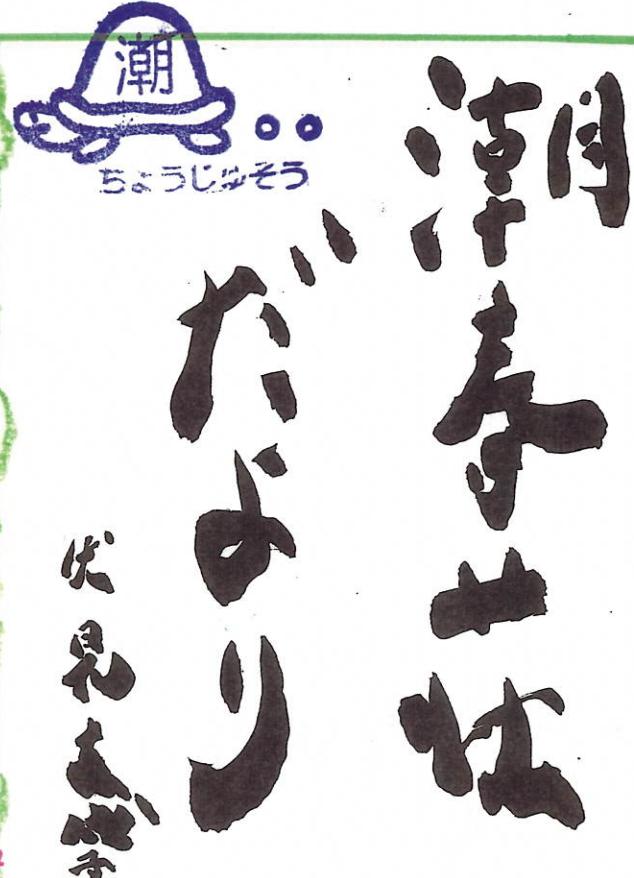
こうして11月23日の勤労感謝の日バイキングは入居者の皆さんも職員も大満足で終わつたようです。

そしていつも、栄養と美味しいご飯と笑顔を与えてくれる厨房の方々に感謝です。来年の勤労感謝の日は仕事だったらしいなあ

（よく笑い時々転んでいる元気でにぎやかな二十歳の介護士・高島）

4ヶ月ほど前に入居された静子さん。笑顔がとてもステキで全身から優しさがガツボリにじみ出ている方なので、すぐに他の入居者さんや職員とも仲良くなり、元気に過ごされています。静子さんには、僕が静子さんの身体の向きを変えている時に必ず僕のお尻を優しくなでてニヤニヤするというおちゃめな一面もあります。先日、僕の息子と嫁を静子さんに紹介したときのことです。息子を連れて静子さんの部屋に行くと、いつも以上の笑顔で「あらあ、めんこちやん」と言い「抱っこしてあげるからおいで」と手を伸ばすと、なんと人見知りの息子が珍しく、自ら抱っこされにいきました。これには僕も嫁もビックリです。そして抱つこしての静子さん手を何気なく見ると、優しい手つきで息子の尻をなでていました。これで僕の軽い誤解が解けました。あの尻をなでるのは、いやらしさなど全くない、静子さんの愛情表現なのだと。

（パーマをかけたら家族から絶不評。思わず反応に悲しむ介護士・慶佑泉）



平成29年12月15日発行  
発行：特別養護老人ホーム

## 潮寿

記事：12月担当潮寿荘職員  
編集：潮寿荘だより編集委員  
題字：伏見眞佐子（90歳）



入居者だより そりいち

